

【1 分解説】スイッチ OTC 医薬品とは？

総合調査部 政策調査グループ長 水澤 太一

スイッチ OTC 医薬品とは、もともと医師の処方が必要だった医療用医薬品のうち、有効性と安全性が国によって改めて確認され、薬局などで処方箋なしに購入できるようになった市販薬（OTC 医薬品）です。医療用から市販薬へ「スイッチ」したことからこの名で呼ばれ、OTC 医薬品の一種となります。

最大の利点は、医療機関を受診せずとも、医療用成分を含む医薬品を薬剤師や登録販売者のアドバイスのもと速やかに入手できる点です。代表例として、アレルギー性鼻炎薬、急な発熱や痛みに対応する解熱鎮痛薬、一部の胃腸薬などがあります。

ただし、元は医療用であった成分を含むため、使用時には注意が必要です。購入前には必ず薬剤師や登録販売者に相談し、自身の症状や体質に合っているか、他の薬との飲み合わせに問題がないかを確認しましょう。特に持病のある方、他の医薬品を服用中の方、妊娠・授乳中の方、高齢者は慎重な判断が求められます。

スイッチ OTC 医薬品はセルフメディケーションの幅を広げ、軽い不調のケアやその症状の進行・再発の予防に役立つもので、生活の質の向上にも貢献します。安全に活用するためには、薬に関する正しい知識を身につけ、実際に使用する薬の添付文書をよく読み、自身の状態を的確に見極めることが大切です。

関連レポート

・「【1 分解説】OTC 医薬品とは？」(2025 年 5 月)

<https://www.dlri.co.jp/report/ld/445025.html>